

平成24年度
発生予察情報

特殊報第2号

平成25年1月30日
埼玉県病害虫防除所
(TEL:048-525-0747)

ふいりか スモモ斑入果病について

平成24年7月、県内のスモモにおいて果実に斑入り模様症状が発生したので、農林総合研究センターで原因を調査したところ、ホップ矮化ウイロイドによる被害と判明しました。

* 特殊報：新規な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異な現象が認められた場合に発表するものです。

1 病害虫名 スモモ斑入果病

[病原名：ホップ矮化ウイロイド (Hop stunt viroid)]

2 作物名 スモモ

3 発生経過

- (1) 平成24年7月、県中央部の産地において、果皮がキリンの斑紋に似た黄色と赤紫色のまだら模様になった斑入果が発生した(写真)。
- (2) 県農林総合研究センターにおいて遺伝子診断(RT-PCR法)により検定した結果、スモモ斑入果病の病原であるホップ矮化ウイロイドが検出された。
- (3) ホップ矮化ウイロイドによるスモモ斑入果病は、本県では初めて確認された。本病は、1985年に山梨県で初確認され、その後、福岡県、福島県、島根県及び長崎県で発生が報告されている。

4 病徴

果実のみに発生し、葉や新梢などには症状は見られない。樹勢の低下も見られない。太陽、大石早生、サンタローザ等の品種では斑入果となる。一方、ソルダムでは斑入果症状は見られず、果粉の形成が薄く、果肉は硬く黄色がかり、成熟期になっても鮮紅色とならず黄果症状となる。

熟期は健全樹よりも7~10日程度遅れ、果肉は硬く締まり軟化が遅れ、食味が悪くなる。



写真 スモモ斑入果病の症状（品種：貴陽）

5 伝染形態

- (1) 主に接ぎ木伝染するため、感染樹からの採穂によって苗木を育成したり、高接ぎすることにより伝染する。
- (2) せん定などの管理作業時に汁液伝染する。

6 防除対策

- (1) 健全苗を使用する。
- (2) 発病樹は伐採・抜根など適切な処分を行い、健全樹を植える。
- (3) せん定等に用いるはさみや鋸等は、1 樹毎に水洗いし市販の次亜塩素酸ナトリウムの消毒薬または家庭用塩素系漂白剤（例：次亜塩素酸ナトリウム 5%含有のものであれば 2 倍液に 30 秒間）に漬けて消毒する。

家庭用塩素系漂白剤の中には、濃度の薄いものもあるのでラベルで確認する。

次亜塩素酸ナトリウムは時間がたつと効果が低下するので、購入してから時間がたったものや希釈して作り置きしたものは使用せず、新たなものを用意する。

また、次亜塩素酸ナトリウムには金属腐食性があり、プラスチックやゴムも劣化させるので取り扱いに注意し、使用後はさみや鋸等は十分な水洗い等を行う。